

平成30年度第一回相談支援部会報告

日時 平成30年10月2日(火) 14:00～16:00
 場所 東久留米市役所 205会議室
 出席 松本(身障福祉協会)、高原(ぶどうの郷)、小林(めるくまーる)、大櫛(社協)、
 岡島(バオバブ)、貝沼(こぶし)、小林(わかくさ学園)、武藤(清瀬特支)、
 竹内(リカバリーハウス)、有馬(ゆう)、
 市役所→太田、藤

1. 第一回自立支援協議会報告
2. 施設代表者会 相談支援部会報告 小林さん(めるくまーる)より
 - ・市内相談支援事業所間で、顔の見える連携を目的として開催
 - ・月1回、現状報告や意見交換。今年は、報酬改定があり、詳細確認をおこなった
 - ・今後は、ケース検討や勉強会を実施していきたい
3. 今年度清瀬特支卒業生の報告
 - ・生活介護を希望されている方は、市内作業所は受け皿がない。かなえが女性が可能かどうか・・・
 - ・他の方は、すべて市外(東村山、小平市、所沢市等)
4. 「障害や病気のある方の地域での生活と共生に関する意識調査報告書」(第5期障害福祉計画、第一期障害児福祉計画のアンケート調査報告)についての検討

報告書の33～38頁を輪読し、重要と思われるところについて意見交換を行なった。

問18 「あなたは、日常生活で困っていることはありますか」について

<グループホーム>

・もっと東久留米市の力でグループホームをいくつか作っていただきたい(34右)

・グループホームに空きが無い・・・(36左)

○高齢アルコールの人が多く。家に帰ったらすぐ飲んでしまうので、二人部屋が有効。

○グループホームがたりない→グループホームではなく、一人暮らしをしたい人もいる。その場合、行政や事業所がどうささえるかが課題。

○施設は、本人同意が必要だが、知的の方の本人同意ということが難しいのでは・・・。

○ひとり暮らしだと、お金に関するトラブルが発生することもある。悪い仲間に関わることもある。注目されずリストカットやアルコールに走る場合もある。

<障害の理解>

・躁鬱の理解がない(34右)

・子育ての相談に行ってもカウンセラーの人が健常者なので障害者の気持ちが分からず、相談

にのってもらえない(35右)

・外見ではわからない障害なのであえて周囲に話したり知られたくない。うわさ話の多い住宅地で実際にうわさされている。(36右)

○障害に対する理解の低さ→知的と精神の違いなど、難しい。

○啓蒙の難しさがある。

○アルコール依存に対する理解も難しい。

<不安>

・不安だらけ。家族のことも自分のことも医療についても仕事もしたいのに……。 (35左)

・金銭面の不安(35右)

・今は困っていないが将来は不安(35右)

・一人では生きられない障害(で)あり、誰かのサポートがない限り生きられない。… (35左)

○30～40%は健常者でも不安がある。相談支援で希望を持ってもらうことはできないか。

○お金がない→制度の改善は難しい。福祉の制度をしらない方も多。制度を知っていれば、改善できる点もあるのでは……。制度の周知をどうすればいいのだろうか……。

<放課後等デイサービス>

・(略)放デイは充実してきて、なんとかパートはできているが、子供が卒業して18才になったら、利用できなくなる。…重度の子をずっと8年介護してきて、先の見通しもなく、精神的にも身体的にもボロボロです。働く自由さえも奪われるのかと思うと辛いです。普通の暮らしがしてみたい……。 (36左)

○放課後等デイサービス終了後の問題→学童部の親は働いている人が多い。18歳以降の問題。事業所で、自費で延長しているところもある。

○人手不足→福祉業界で働く場は作れないか？人手不足を少しでも解消できないか……。障害の子の母親が、福祉業界で働けないか……。力はあるのでは……。

<相談支援>

・相談できるところがない。(36右)

・軽度知的なので外見は普通、それに苦しんでいる(36右)

○相談できるところがないのは大きな課題だ。

○相談支援事業所はサービスを使うことでスタートするので、軽度の人利用がないと関わるのが難しい。

○「相談できるところがない」「サービスがわからない」というのは、最初に相談する福祉課窓口の対応が大切。

○相談支援は、普段使っている事業所がいいのか、行政区がいいのか、どちらがいいのかはわからない。

○相談支援事業所は本人が決めるべきなので、本人に選んでもらうのが基本だと思っている。

○18才まではわかき学園で作成している。

<サービス利用の問題（限界）>

・作業所に通いたいが希望にあった所が見つからない（34左）

○本人の希望にかなった作業所がないことも問題だが、作業所の方で他の利用者に対する配慮等から利用をお断りしなければならない場合もあり、そのような時にご本人をどのように支援するかという問題が生じる。

<言葉がわからなかったもの>

・（略）磁気ループ（34左）を設置してください。・・・（34左）

・ホールや体育館などの床に磁気ループを敷設することにより、音声を伝えることができる。誘導コイル付き補聴器で聴くことができる。

・プロヴォックスのランニングコストが多大にかかる。（34右）

・喉頭がんや咽頭がんにより声帯を含む喉頭を摘出された方が、再び声を発することができる方法が主に3つある。食道発声、電気喉頭による発声、そしてプロヴォックスによるシャント発声。

問19「障害のある人が一般就労するためには、どのような支援が必要だと思いますか」について

○コーディネートが難しい。

○東久留米市の企業でも、雇用をはじめるところが増えている。

○都立全体の特別支援学校卒業生の50%は、一般企業に就職している。

<就労の困難、相談の受け方とアドバイス>

・（就労は）無理だと思う、元気な人も大変なのに。笑（38左）

・以上のようなことは全く期待できない。行政はいつもその時期になるとこんなアンケート用紙を送ってくるだけ（38左）

○このような意見にどう応えるかが大事だ。

○アンケートの回収率は高い（61%）が、相談にこない人は相談以前・・・そういう人をどう吸い上げていくのか・・・。

○窓口に来た人に提案型サービスをどの位やっているのか？ガイドラインはあるか？申請を受けるのみなのか？

○窓口に来た人にはまず話を聞く。それに即した対応をする。

○教員でもA先生はやるがB先生はやらないということがある。

○出かけて行つての相談はないのか。商売ではお客が来なければ出かけて行く。

<全体的に>

○障害をもっている方の困難さをどこで吸い上げるのか？相談してくれたときに吸い上げたとしても、それをどうやって返していくか、課題である。

○本人の意思決定支援の難しさ・・・

5. 次回

1月15日（火）14:00～